

2024年度

地域の活性化への貢献に関する提案とその取組み

社会福祉法人 北海長正会
北広島団地地域サポートセンターともに

地域活性化への貢献に関する提案

北広島市において、2010年3月につくられた北広島団地活性化計画の基本方針に3つの理念があります。一つは「北広島団地に住み続けられること」、二つ目は「将来、住民となる次世代のこと」、三つめは「北広島団地の魅力アップ」についてであります。当法人はこれらの理念のもと、小学校跡施設が持つ特性を有効に活用し、下記に示す取り組みを実践することで地域の活性化に貢献いたします。

地域活性化への貢献に関する提案

地域活性化への貢献に関する提案

理念1
「北広島団地に住み続けられること」を重視

1.賑わいや交流の場づくり

2.地域コミュニティの再生

3.安心して暮らせる環境づくり

理念2
「将来、住民となる次世代のこと」を重視

4.住み替え支援

5.子育て世代の転入促進

理念3
「北広島団地の魅力アップ」を重視

6.まちの魅力づくり

7.地域資源の活用

8.情報の発信

地域サポートセンターとともに実践計画

1) 交流の場の創造

- 2) 地域交流スペースに喫茶やキッズコーナー・宿泊機能を
- 3) イベントの開催
- 4) 地域の介護予防とスポーツの推進
- 5) 道都大学との連携
- 6) 住民ボランティアの組織化とコーディネート

- 7) 喫茶コーナーの運営
- 8) 地域食堂の運営
- 9) 地域ミーティングで地域の活性化を
- 10) ミニ講座・ミニ講演の開催
- 11) 高齢者・障がい児者の介護相談と生活支援
- 12) 認知症の人の支援
- 13) 災害時要援護者の支援
- 14) 福祉と医療の連携

15) 高齢者向け住宅の確保

16) 子育て環境の充実

- 17) まちの人材（人財）を活かし地域の魅力アップ
- 18) 宿泊施設の活用

19) 地域活動への協力と参加

20) 情報の収集と発信

1) 交流の場の創造

小学校跡施設を活用した交流の場づくりを地域の人と共に実践します。トリムコースにつながるエルフィンパーク交流広場・広葉小学校跡施設利活用などのエコミュージアム等の社会資源や隣接する公園の自然などを含む環境を大切にする取り組みや自然学習などの取り組みなど学校跡施設をキーステーションとしてつながりを創造して参ります。

・平成25年12月から活動を開始した「ともに市民スタッフ」のメンバーは約40名。定期的に市民スタッフミーティングを開催して、地域のつながり、支え合いのために「ともに」を拠点として、できることを話し合っています。

・「楽しい場所に人は集まってくる」をキーワードに、イベントやコンサートを企画したり、トリムコースから見えるグラウンドにドッグランを整備し、地域住民の「居場所」の1つになっています。

平日の放課後は子どもたちも集まり、日々多世代の交流を楽しんでいます。



ミニコンサート



ドッグラン



喫茶コーナー



玄関前ホール

2) 地域交流スペースに喫茶やキッズコーナー宿泊機能を

地域交流スペースは、全体で525㎡となります。内訳は、喫茶コーナー（104㎡）、活動室1（64㎡）、活動室2（24㎡）、活動室3（32㎡）、活動室4（90㎡）、活動室5（60㎡）、玄関ホールにキッズコーナーを配置し、活動室は、宿泊できるようにします。

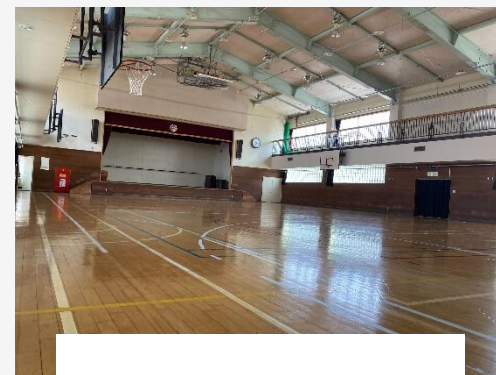
- ・キッズコーナーでは、地域の子育て世代が遊びに来たり、市の子育て支援センター（あいあい）が出前講座を実施しており、世代を超えて楽しんでいます。また多くの小学生が放課後に体育館で遊び、玄関ホールは多世代交流の場になっています。
- ・体育館は少年団や企業の専有利用としてそれぞれ定期的に申し込みがあります。



キッズコーナー



喫茶コーナー



体育館

3) イベントの開催

喫茶コーナー、活動室、体育館を活用して、第4住区地域のお茶の間などの地域の人たちと連携し、コンサート、カラオケ大会、落語、手品や季節のイベントを開催します。定期的なイベントの開催は、同じ趣味・嗜好をもつ地域の方々の出会いの場や、再会を楽しみにする場になります。また、イベントが活発化することにより、企画・運営する地域の人々のやりがいにつながり、主体的活動が活発化します。

退職後の第二の人生で親しい友人がいない人、配偶者や友人に先立たれ一人で生活している人、子供と同居せざるを得なくなり友人のいない知らない土地に来た人などの、孤独を感じ、人とのつながりを強く求めている人たちが、定期的なイベントに参加することで自然と出会い、そしてつながっていきます。「この年になって友達ができると思わなかった。」「あの人と出会えて毎日が楽しい。」このような声が聞こえてくる空間にしたいと考えています。

・ともに市民スタッフの企画イベント（地域の学芸会、地域の運動会、工作教室）が開催されました。又、毎月1回「第4住区地域のお茶の間」、お茶会を中心に各種講座、コンサート、体操などを開催しています。地域の方々と、ともに生活している方々、北広島市役所・学生、法人職員と一緒に盛り上がり世代を超えて三位一体で交流を図っています。

ともに市民スタッフの会
地域の運動会



ともに市民スタッフの会
地域の学芸会



地域の学芸会
子どもチアダンス



市民スタッフ作成
アイスキャンデル



4) 地域の介護予防とスポーツの推進

小学校跡施設の特性である体育館・グラウンドなどを活用して、地域の人たちだけではなく道内外の人たちが、バスケットボール・バレー・卓球・バドミントン・野球・サッカー・ソフトボール・ランニングや冬は歩くスキーを楽しむことが出来る場として子供の健全育成、障がい者の社会参加など地域のスポーツを応援します。また、体育館にトレーニングマシンを設置し、地域の人々の生活習慣病予防や介護予防と機能回復に取り組み、超高齢時代を楽しく生活できるよう支援します。

- 体育館・グラウンドは、各種サークル団体、スポーツ少年団、障がい者団体、地域の小学生（放課後利用）、企業などが、市内外から利用されています。
- グラウンドに2024年7月にドッグランをOPENさせました。大型犬・中型犬・小型犬エリアがあり市内最大級のとなりました。
- ボッチャを通じて楽しく健康づくりをしています。昨年は市内の交流大会で準優勝となりました。オリジナルTシャツを作ったり食事会をしたりメンバー同士のつながりを深めています。



みんなで
ラジオ体操



目指せ！金メダル！
ボッチャ



ダンスをとりいれた
ともにウェルネス



グラウンドの活用
ドッグラン

5) 大学との連携（星槎道都大学・札幌国際大学・北海道医療大学）

北広島市にある星槎道都大学には、社会福祉学部・美術学部があります。地域交流スペースを美術学部の協力により絵画を展示したり、イベントへの協力、スポーツ系活動部と連携した障害者スポーツの推進、子育て世代の活動・支援を保育を目指す学生と連携、地域の課題解決や地域の魅力を創造する活動などを、知識・技術を持った大学教授や、若さとパワーを持った学生と、地域の人々、自治体と連携することで地域の活性化を進めていきます。

- ・ともに市民スタッフのイベントの企画運営に大学生が関わっています。学内でプロジェクトを立ち上げ学生が主体的に取り組み活動をしています。若い視点ならではの発想にスタッフ・来場者含め楽しい時間となっています。
- ・イベントでできたつながりがともに外でも継続することで新たなつながりの輪となっています。
- ・2028年に移転予定の北海道医療大学とも先を見据え2024年に連携協定を締結しました。



北海道医療大学



札幌国際大学



星槎道都大学

6) 住民ボランティアの組織化とコーディネート

小学校跡施設で行う活動は地域の人たちの主体的・積極的な参加が意味をなすものであり、「人と人とのつながりから生きることの喜びを知ろう！」をテーマとして、地域の人たちと共に学び、共に語り、共に喜び、共に地域力を高める活動を実践していきます。地域には「人のために何かをしたいけど、どこへ行って何をしたら良いのかわからない」「この部分だけ手伝ってくれたら、この家で生活できるんだけど・・」という人が沢山います。このような方々のためにも、地域の人と一緒に、人と人をつなげる活動をしていきます。そして、この共生の理念を理解した地域の人たちと共に、仲間を誘い増やし、安心して生活のできる喜びある豊かな地域社会となるよう努めて参ります。“支え合いから生きることの喜びを感じることができる価値”を大切に、住民ボランティアの組織化を積極的に進めて参ります。

・住民ボランティアによる「ともに市民スタッフの会」のメンバーは、継続的に仲間を集めています。徐々に仲間を増やし現在約40名となっています。又、「ともに市民スタッフの会」に加入していない市内に在住のボランティアの方々も、畑の整備やドッグラン事業、トーチづくりなど行っていただいています。地域の方々自身が様々なことに取り組み、誰もが健康に、安心して暮らす事ができる街づくりを目指す活動を今後も進めていきます。

結成10年記念旅行
ともに市民スタッフの会



地域の学芸会
ともに市民スタッフの会



トーチづくり
「男のきこりチーム」

7) 喫茶コーナーの運営

喫茶コーナーは地域の方々が中心になって運営します。地域の方が地域の人に喜んでもらうために、こだわりのコーヒーや手作りお菓子などを提供したり、喫茶コーナーを綺麗な花や手作りの小物で飾ったり、掃除をしたり、一人で来られた方とゆっくり会話を楽しんだり、利用した人から「ありがとう」「とても美味しかった」「落ち着く空間ですね」「あなたがいると思って来てみました」「あなたの人柄で癒されます」という生の声が返ってくるような、“人のために何かしたいと活動する人の思い”を大切にする喫茶コーナーにしたいと考えています。

- ともに市民スタッフの会が主体となって喫茶コーナーを運営しています。現在週3回（月・水・金）の営業しています。ともにで生活されている方々と地域の方々との交流が始まり、ともにの喫茶が地域における交流の場としての役割を担っております。
- 定休日も喫茶コーナーは開放をしているため地域の方が自由に利用しています。
- 入居者さんと地域の方のつながりも生まれています。



喫茶コーナー
地域の方の集いの場



ナポリタン
たまごスープセット



OPEN

月・水・金 11:00~15:00

150円メニュー

- ・コーヒー
- ・紅茶
- ・ココア
- ・たまごスープ
- ・たい焼き
- ・おやき(クリーム)
- ・かき氷(草限定)

300円メニュー

- ・パスタ各種

8) 地域食堂の運営

調理室の資源を生かし、ボランティアの協力のもと、食事を提供します。一人暮らしの人が地域の人と一緒に、会話を楽しみながら食事をとることが出来たり、調理をすることが困難な方に、温かい心のこもった手作りの食事を提供し、一人暮らしの人が増えて行く状況において、「家族ができたみたいだ」「みんなで食べるとご飯がおいしい」という家族のぬくもりを感じる事が出来る地域食堂にしたいと考えています。

・毎月1回地域食堂をOPENしています。ワンコインで食べられる本格的な味。毎回100名以上来店し、地域の方の食を通じた楽しみの1つになっています。地域食堂を集まるきっかけにさせていただいたり、法人内の通所・入所事業所では外出行事として、利用者さんと地域の方とのつながりづくりにもなっています。



地域食堂
ワンコインで大満足



地域食堂
外食先の1つに



地域食堂
三世代交流

9) 地域ミーティングで地域の活性化を

子ども・子育て世代・高齢者・障がい児者などの地域の人を中心に、星槎道都大学、商店、企業の方々と一緒に、地域の課題解決に取り組み、住み良い楽しい地域をつくります。この取り組みを継続しながら、住民主導の活動が活発化するようにコーディネートします。“世代や障がいを越えた交流と、協働することの価値”を体感できる機会にしたいと考えています。

・生涯現役地域づくり環境整備事業を通じて地域住民とのグループワークを重ねました。「私の夢とロマン」 難しい課題を考えるのではなく、自分たちでできることから、「モヤモヤからワクワクへ」をキーワードに延べ270名の方が参加しました。実際に出た声から、「ドッグラン事業」「木の楽しみを知る事業」がスタートしました。

・「大根マンボ」が音研アワード2023でエルダリー賞を受賞しました。地域の方と職員そして観客と一緒に盛り上がる事ができる、ダンスです。（外部イベントに呼ばれたり、音源を使用したいという声もいただいています。）



「私の夢とロマン」
グループワーク



子育て世代も
子どもたちのために



10) ミニ講座・ミニ講演の開催

毎月2回程度、法人の持つ専門的な社会資源と知識・経験を活かし、福祉や医療の講座を開催します。少人数制のミニ講座の開催により、参加者の方の個別のニーズに対応し、地域の方が生活に必要な知識・技術を提供すると共に、地域の方が抱えている課題を一緒に考えて行く場になります。

- ・ハイブリット式で毎月2回ミニ講座を開催しています。オンライン配信によって、ふれて拠点やご自宅から参加することができます。
- ・地域の行政書士・薬剤師・弁護士や法人職員を講師に情報発信を続けています。



専門職から
正しい情報発信



ミニ講座



1 1) 高齢者・障がい児者の介護相談と生活支援

孤立化する地域の人をつなぐの構築や生活課題の解決に向け、緑陽小学校跡施設で事業を行う、居宅介護支援事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・複合型サービス・認知症対応型共同生活介護事業・サービス付き高齢者向け住宅の専門的知識と経験を有する職員が、生活相談、介護保険法・障害者自立支援法や介護全般の相談、認知症の方やその家族への支援、医療相談、施設入所の住み替え相談など、幅広く地域の人たちの相談に対応します。

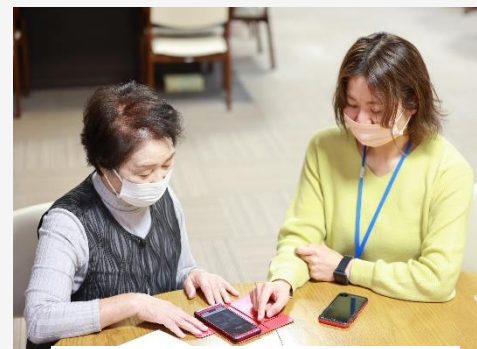
- ・今後も、当法人が有する事業所をあげて、サービスを必要とする方々やそのご家族、地域を支えていく取り組みを継続していきます。
- ・スマホを持っていない方、便利な使い方を知らない方（高齢者）を対象に、スマホ相談を実施。人とつながることが出来るために、情報収集や買物等に困らないために実施。
- ・北広島ホームヘルプサービスステーション四恩園は、公的な訪問介護サービスだけでは生活が困難な方のニーズに応え、独自のサービス「ゆたかさプラス」を実施しています。



専門職のチームワーク



独自サービス「ゆたかさプラス」



スマホ相談

1 2) 認知症の人の支援

地域の人、北広島市高齢者支援課・地域支援センター、小学校跡施設で事業を行う居宅介護支援事業所・複合型サービス・認知症対応型共同生活介護事業が連携し、地域で暮らす認知症の方とその家族を支えます。「徘徊する家族が心配で目が離せない」「大切な家族を受け入れてくれる施設がない」「少しでも良いから介護から離れて休みたい」という訴えに対応するためにも、認知症サポーター養成講座により認知症サポーターを積極的に養成して、認知症の正しい理解と対応について地域に啓蒙し、地域の人と一緒に、認知症になっても安心して暮らすことのできる地域づくりに努めます。

- ・ミニ講座を通じて「認知症」に対する正しい知識を発信しています。
「ドッグラン事業では、地域の見守り活動を広げるため、『認知症SOS』にご登録いただいた方に、利用料金のサービスを提供しています。
- ・2024年度の認知症サポーター養成講座は、市民、小学校、市役所、郵便局などで開催（6回、128名）しています。この活動は認知症支え合いセンターを中心に福祉に従事する方々がボランティアで行っています。この取り組みは平成18年からスタートし、講座回数203回、受講者は7,650名になりました。



認知症サポーター養成講座



愛犬を通じたつながりづくり



北広島市認知症高齢者等SOSネットワーク事業
行方不明者の情報を
北広島市公式LINEアカウントで配信しております

1 3) 災害時要援護者の支援

災害時要援護者の方々が安心して暮らすことのできる仕組みづくりを、住民、北広島市、法人三位一体となって検討していきます。災害時要援護者の方々の具体的避難支援プランを、本人を中心に近隣住民、北広島市、法人で作成し、それを基に避難訓練を行うなど、緑陽小学校跡地が位置する第4住区を中心とした取り組みができるよう努めます。日頃から、災害時要援護者であっても顔の見えるつながりを構築できるよう努めます。

- ・地域サポートセンターともには、災害時にはグラウンドが一時避難場所に、体育館が収容避難場所に指定されております。また、北広島市役所と福祉避難所の契約も締結しています。今後も地域の防災拠点としてつながりをつくりながら地域の防災、支え合いの仕組みをつくっていきたくと考えています。
- ・自家発電機を整備し、停電や地震などの災害時にも備えています。在宅酸素などの医療機器が必要な方にも、安心してサポートを受けていただけるような環境を整えています。



防災備蓄庫



災害用品



自家発電&軽油タンク

1 4) 福祉と医療の連携

今後到来する超高齢社会に向けて、福祉と医療の連携のもと北広島市における地域包括ケアシステムの構築の一翼を担います。医療機関との連携と法人の持つ知識と経験を生かして、介護が必要になっても住み慣れた地域で生活を続けられるよう、小地域における包括的在宅ケアの仕組みを構築できるよう努めます。

- ・北広島市と連携のもと2017年度からスタートした日常生活支援総合事業により、地域包括ケアシステムの構築を一層進めていきます。
- ・2019年度から定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を開始。医療との連携により、日々の安否確認や看取りを実践しています。



巡回サービス



スピーディーな情報共有



在宅医療介護連携
コーディネーター

1 5) 高齢者向け住宅の確保

小学校跡施設にサービス付き高齢者向け住宅 31室と、認知症対応型共同生活介護事業 18室を建設します。今後、認知症の人の増加や、一人暮らしや高齢者のみ世帯が増加するとされる北広島市の課題と、そこに住む地域の人々の不安に対応するために、サービス付き高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護事業への住み替えを含めた、介護と生活全般の課題に対応します。

・北広島市団地高齢化率は48.4%（2025.3月末）。今後も認知症の人や一人暮らし高齢者などの生活課題に対応していきます。



	定員	入居者数	平均年齢	要介護度	待機者
グループホーム	18人	18名	91.6歳	3.0	30名
サ高住	31室	34名	89.1歳	1.1	89名

1 6) 子育て環境の充実

キッズコーナーや活動室などを活用し、子育て支援センター・NPOなどの子育て支援団体と連携しながら定期的なイベントを開催します。また、当事者である子育て世代や地域の人々が中心となり、イベント・講座の開催・地域活動など、子育て世代に魅力ある地域にするための取組みを一緒に行います。子育て応援のまちをつくるために、地域の子育てする親御さんと、地域の宝である子どもを地域で支える拠点にしたいと考えています。

- キッズコーナーでは、地域の子育て世代が遊びに来たり、子育て支援センターと連携して出張保育（まーぶるひろば）を実施しています。
- 地域食堂の際にはローテーブル部屋を開放して子連れでも安心して食事できる場所を提供しています。



同年代のお友達が沢山



手形で成長を確認

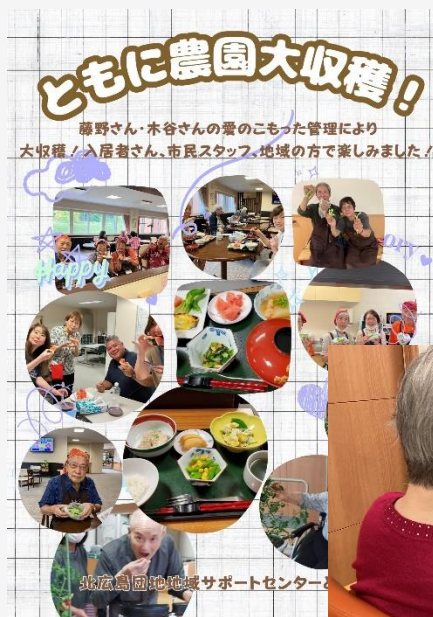


座卓でゆっくり食事

17) まちの人材（人財）を活かした地域の魅力アップに

北広島市には素晴らしい知識・技術・経験をもった貴重な人材がたくさんおられます。その方々と連携しながら、北広島市の誇る自然や動物、農業、文化、歴史などの市民講演会を定期的開催します。そして、これらの地域の財産を次世代に継承する取組を地域の人と一緒に行っていきます。この取組みを継続することで、北広島市の人の森をつくっていきます。

- ・ともにを人に喜んでもらえる場所にしようと、綺麗な花や、木の置物、工作などを、ともに市民スタッフや地域の方々が飾ってくれています。ともに農園では毎年収穫量が増えています。
- ・「自分の得意で喜んでもらいたい」小学生がネイルサロンをしたり、子育て世代が「赤ちゃん職員」として子連れで事業所をめぐり、笑顔を増やしています。



木工作品



赤ちゃん職員



タクティールケア



小学生ネイリスト



フラワーアレンジメント

1 8) 宿泊施設の活用

地域の人たちだけではなく道内外の人たちが利用することができる宿泊施設にします。トリムコース沿いに出来るエコミュージアム（広葉小学校跡利活用）や、北広島の森・花・鳥・農業・文化・歴史などのまちの魅力を発見する宿泊体験、スポーツ合宿、企業の宿泊研修などに活用できる場をつくります。小学校跡利活用により、子供の健全育成、障がい児者の自立と社会参加、生活習慣病予防や介護予防、世代間交流など、北広島の魅力を発信して参ります。

スポーツ少年団や学生の部活の合宿にご利用いただいています。

24年度	宿泊団体	人数	6団体	134名
23年度	宿泊団体	人数	3団体	85名

1 9) 地域活動への協力と参加

今後も地域の活動や取り組みに積極的に協力・参加していきます。第4住区自治会、民生児童委員、地区社会福祉委員会、単一自治会などで行っているイベントや取り組みを応援します。

- ・地域で開催されるお祭りに参加しています。出店を通じて地域の方との顔が見える関係ができ、ともにの利用につながっています。また困りごとへの相談対応や地域情報の提供に専門職があたることにより、法人の理念を正しく発信できる機会となっています。
- ・法人内で結成した「ラディッシュバンド」は、参加者とともに歌って楽しむをコンセプトに盛り上がっています。



子どもに大人気の宝引き



血圧測定



ラディッシュバンド



おいしいたい焼き

20) 情報の収集と発信

地域向け情報誌の定期的発行とホームページを活用して、小学校跡施設でのイベントや取り組みと北広島市の魅力を、地域の人たちだけではなく道内外の人たちにも情報発信します。生活、趣味、介護などの情報や生活に役立つ情報を提供し、地域の人たちの役に立つ喜ばれる情報を発信します。

- ・毎月活動予定・報告を掲載した通信を発行しています。北海道新聞に折込をしたり関係機関へ配布をしています。発行を楽しみに待つ地域の方多く喜ばれています。活動の発信を続けることで市外・道外・海外からの視察も継続的に受け入れています。私達の活動が広まることで活動する市民スタッフの意欲にもつながります。
- ・各事業所はコロナ禍からICTを積極的に取り入れて利用者家族との情報共有等も進めています。

とも通信

ふれて通信



施設見学